

# 八戸工業高等専門学校

# 同窓会会報

八戸高専同窓会 第41号

## 同窓会会報41号の目次

創立50周年記念ホール完成・・・・・・・・・・	1	学内ニュース・・・・・・・・・・	6
会長あいさつ・・・・・・・・・・	2	コースからのメッセージ・・・・・・・・	13
校長あいさつ・・・・・・・・・・	3	平成27年度 事務局短信・・・・・・・・	15
支部会報告・・・・・・・・・・	4		
私のお仕事紹介します・・・・・・・・・・	5		

## ～創立50周年記念ホール完成～



7月18日(土)に竣工式が執り行われます。  
同窓会会員の皆様におかれましては、多大なるご支援誠にありがとうございました。

# 会長あいさつ

今年度より、同窓会会長に就任いたしました館山と申します。昭和 53 年、土木工学科卒業 Z6 です。高専卒業後は国鉄に入社し、昭和 62 年の JR 移行後からは、国鉄技術研究所を承継した公益財団法人 鉄道総合技術研究所（国立市）に勤めております。宣伝になりますが、新幹線やリニアモーターカーの開発は、当研究所の研究成果の一つであります。これまで、同窓会活動に全く関わっていませんでしたことから、突然の会長就任に違和感を覚える方も多いと思いますが、一番驚いているのは、自分自身であります。地元には在住していませんが、私に出来ることは限られておりますが、副会長 4 名（若狭様 C3、大久保様 E10、橋場様 M5、円子様 Z7）と学校事務局 7 名（赤垣事務局長、黒沢総務担当他）の新体制で、微力ながら皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思っております。

さて、昨今、高専を取り巻く環境は劇的に変化しております。高度経済成長期の創生期においては、地域産業を支える実践技術者の育成が主たる使命でありましたが、その後、長期に亘る経済停滞、人口減少を経て、産業構造や社会構造が著しく変化しております。これに連れて、高専の高校化（八戸でも進学率 40%強）、高・大一貫教育化（専攻科の設置）、グローバル化への対応（英語教育の強化）等が進められており、同窓会においても、従来の枠組みを超えて、会員の多種多様な要求に対応することが求められております。特に、会員サービスの世代間格差の是正は急務であり、中長期的には以下に取り組む必要があると考えております。

- ・リタイア世代の集会場の提供の充実
- ・現職世代の人脈作りへの寄与
- ・現役学生への就職、編入支援

また、山本修前会長からの引継ぎでは、当面の課題として、平成 30 年の同窓会創立 50 周年へ



就任にあたって

【同窓会会長 館山 勝】

の対応、支部体制の再検討、名簿・HP の充実などを挙げて頂きました。いずれも重要な課題であるため、一つずつ、着実に取り組んでいきたいと考えておりますが、まずは、その始めとして、名簿の充実について取り組みたいと考えております。また、同窓会の愛称を設けたいと考えております。親しみやすい愛称の命名は、同窓会会員のアイデンティティ醸成に必ずや寄与するものと考えております。例えば、校歌の一節から、「馬淵会」や「夢高会」、寮名から「北辰会」などは如何でしょうか？

さて、先般の創立 50 周年記念事業では、同窓会各位から 1200 万円を超える寄付を頂き、学校側にも同窓会の力をアピールすることが出来ました。特にクラス幹事の皆様には、多大なるご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。今後も、同窓会活動へのご協力について、何卒、お願い申し上げます。

最後になりますが、本年 5 月 24 日に、元同窓会会長の榎本善光様（C1）がご逝去されました。榎本様は同窓会活動のみならず、田面木塾の創設などに尽力されました。心から冥福を祈りたいと思います。

# 校長あいさつ

本校は平成 25 年に創立五十周年を迎え、昨年度は新たな八戸高専を目指し踏み出した第 1 歩にあたる 1 年でした。創立五十周年記念ホールは 170 名の収容ができる多機能なホールとして 5 月末日ではほぼ完成し、竣工式を待つばかりとなりました。創立五十周年記念事業に対して、卒業生・修了生の皆様から多額のご寄附を頂きました。ご協力頂いた同窓会の皆様の温かいご支援とご協力に対して、あらためて深甚の感謝を申し上げたいと存じます。

平成 27 年度の新入生を対象として学科と専攻科が再編されました。本校が創立 50 周年を迎えたことを機に、現在の地域のニーズに即した学科編成とすべく、青森県や八戸市等の将来計画や地域企業等からの要望を基に、1 学科 4 コース制の編成としました。特に、この青森県の三八地域には優秀な金属系企業が多数にあることから、金属系のカリキュラムや研究の充実、また、本校の建築系のカリキュラムの充実を推進します。学科名を産業システム工学科として、機械システムデザインコース、電気情報工学コース、マテリアル・バイオ工学コース、環境都市・建築デザインコースの 4 コースとしました。専攻科も 1 専攻 4 コースとなります。平成 27 年度入学試験の倍率は学科再編もあり、昨年度の 1.8 から 2.2 倍に増加しました。

また、平成 27 年度から 4 学期制を導入しました。4 学期制とは 4 月～6 月上旬を春学期、6 月上旬～8 月上旬を夏学期、11 月～2 月上旬までを冬学期として授業を実施し、8 月上旬から 10 月下旬までを秋学期として、国内外のインターンシップやアクティブラーニングを実施するものです。新しい 4 学期制度の目的は、学生が将来にわたって学習する基盤が培われ、主体的に学ぶ習慣や専門知識を習得できるとともに社会の発展に寄与する志



【特別会員・学校長 岡田 益男】

や責任感を身に着けられるような教育カリキュラムの導入です。

昨年度の就職・進学ですが、進学率は昨年度と同様の 43%で、専攻科からの進学率も 45%に大幅に増加しました。これは、本科や専攻科の学生が積極的に編入学試験や大学院入学試験に挑戦した結果だと存じます。

平成 26 年度の本校の人事異動についてご報告申し上げます。細越淳一教授、鎌田長幸教授、杉山和夫教授、菅原隆教授は平成 27 年 3 月 31 日をもって定年退職となりました。先生方の本校への永年のご尽力に敬意を表するとともに、深甚の感謝を申し上げます。また、平成 26 年 10 月 1 日付で総合科学科に若狭尊裕助教、平成 27 年 4 月 1 日付で総合科学教育科に佐藤健准教授、マテリアル・バイオ工学コースに福松嵩博助教と金子賢介助教、6 月 1 日付で環境都市・建築デザインコースに庭瀬一仁准教授が赴任されました。今後のご活躍を祈念致しております。

同窓会の皆様には、今後とも本校発展のために一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 支部会報告

## 関東支部より

### 【八戸高専同窓会関東支部 戸田 和孝】

同窓生諸兄にはご健勝のことと存じ上げます。関東支部では今年度サロン会を2回開催いたしましたので、その内容を以下にお知らせいたします。

#### 第30回サロン会（2014/06/28開催）

東京・東日本橋の貸会議室にてZ科3回生の類家俊明さんに「下水道技術者が辿ったアーティストへの道」というテーマでお話していただきました。類家さんは株式会社東京設計事務所に34年間勤務され、資格として上下水道部門技術士と総合技術管理部門技術士を取得されました。仕事は国内だけではなく中国、インド、イラン、カンボジア、シリアにも出張してご活躍されました。またお忙しい中でも芸術活動に力を入れられてバスルームの中の陶器に絵を描く方法をNew Painting Bathroomとして考案されて数多くの絵を画かれました。最終的には水で洗い流すことになるために、その前に写真を撮って残すことになります。これらの写真を用いて海外で実際に開催した展覧会での作品を参加者に公開して頂きました。参加者一同、暫しのあいだ芸術の世界に引き込まれてしまいました。



第30回サロンの様子

#### 第31回サロン会（2015/03/28開催）

東京・東日本橋の貸会議室にてM科1回生の加々美美人さんに「やすらぎと感動の音を求めて」というテーマでお話していただきました。加々美さんは富士ゼロックスエンジニアリング株式会社を定年退職後、スピーカーを自ら手作りで作成され、4年前からは自宅から遠く離れた山梨県でスピーカーの工房を立ち上げられました。また平成23年秋からは個人事業主として「かがみクラフト」を開業するに至りました。開業披露として平成25年9月に神奈川県海老名市の海老名文化会館でスピーカーを6モデル使用して、40名の参加者に音楽を鑑賞いただいたとのことです。今回は実際に加々美さん手作りのスピーカー3ユニットをサロン会場に搬入・設置してプロの音楽家のCD、及びプロ並みに歌うC2回生佐々木久美さんのCDを再生して参加者一同鑑賞いたしました。参加者の中には周波数や音源に詳しい技術者も多く、専門的なやりとりも数多く交わされました。



第31回サロンの様子

関東支部では今年度もサロン会を2回開催予定です。

以下のメールアドレスにご連絡いただければ随時、関東支部の活動状況等をメールにてご連絡いたします。 [tod.kaz@r2.dion.ne.jp](mailto:tod.kaz@r2.dion.ne.jp)

同窓生の皆様のご理解とご協力に感謝しております。

八戸高専同窓会関東支部 戸田和孝

# 私のお仕事紹介します

## 「田面木で学び、世界とともに微生物研究」

長岡技術科学大学大学院  
生物機能工学専攻 准教授  
C23 小笠原 涉

私は、長岡技術科学大学大学院・生物機能工学専攻におきまして、生物資源工学研究室(通称 小笠原研)で研究をしております。研究は、「微生物の能力を知り、利用する」ことを大きなテーマとしております。私たちは、日々の生活の中で、発酵食品(味噌、醤油、酒、納豆など)を食べ、身近に微生物の恩恵をうけています。その一方で、病気や健康にも大きく関わっています。

バクテリア、カビ、酵母、キノコを対象に、その生物のシステムを解析しています。最近の一番の研究成果は、JAXA、岩手医科大、昭和大とともに歯周病の原因菌由来のタンパク質分解酵素の立体構造解析を行ったことです。歯周病は、心臓病、糖尿病などとの関係が報告され、この研究成果は大きく報道されました。この研究は、私が大学の4年生の時にはじめ、24年後の成果でありました。大学での研究は、企業の研究は違うように思います。「好きなことを、好きなだけ、しっかりやる時間がそこにはある」、しかし、そんなに甘くもなく、「しっかり研究をひきうけた責任」があると思っています。田面木で学び、世界の研究者と日々、コツコツと研究をしております。



小笠原研究室にて

## 「370万人の都 横浜市」

横浜市道路局横浜環状北西線建設課  
施工管理担当係長  
Z13 加藤(旧姓小田島)日出美

私は、平成元年に横浜市へ入庁し、27年目です。ちなみに横浜市の職員は約2万6千人(うち土木職約2千人)という大企業並みの役所なのです。そこに八戸高専卒土木職は平成27年4月に入庁した新人を含め5名(私を含め3名は転職組)います。

また、ここ数年横浜市は、土木職採用者として経験を活かし、即戦力を期待して転職組が採用されています。転職を検討中の方、横浜市も候補先としてどうでしょうか。

私の最初の職場は、土木事務所で道路の維持管理業務、その後異動に伴い橋梁(保土ヶ谷区陣ヶ下高架橋:土木学会田中賞、緑区鴨池大橋)、トンネル(戸塚区とつかアンダーパス)などの工事に携わってきました。現在は、横浜市・首都高速道路(株)共同事業で東名高速の「青葉IC」と第三京浜「港北IC」を結ぶ【高速横浜環状北西線】の工事を担当しています。

平成27年4月より高速本線となるシールド(外径12.4m×2本)の発進立坑築造の土留壁工事に着手しました。完成予定を平成33年度としておりますが、一日も早い完成を目指して、事業を進めてまいります。



写真:土留壁工事状況

# 学内ニュース

## 定年退職教員のご挨拶

### 【総合科学科・教授 細越淳一先生】

～事務局も卒業～

40年間という教員生活でしたが、ふり返ってみると楽しい思い出ばかりで、あまり長いとは思っていません。



今でこそ多数のOBが母校で働き同窓会事務局の仕事も分担できていますが、私が昭和50年に採用された時は、M4回の木村正博氏とC4回の中屋敷育子氏（現：菅原）のお二人で事務局を切り盛りしておられました。まだ会員数も多くなかったことと、電卓がやっと普及してきた時代でしたので、ほとんど手作業でした。たまたま私が電子計算機室の担当だったことから、同窓会事務作業の電算化を始め、データベースを用いた名簿管理にして、負担軽減をしました。家内にまでデータ入力を手伝ってもらったことも懐かしい思い出です。

中でも最も思い出深いのは10年会費の発案です。実習工場内にあった木村正博先生の実験室で、同窓会の財政の安定化がどうしたらできるかを二人で話し合っていた中で、単年度会費と終身会費の中間的なものとして10年分一括納入はどうだろうということになりました。幹部の皆さんにお諮りしたところ、面白い、やってみようということで採用になりました。

当時の高金利も追い風となって発案者の二人でさえも予想外の効果でした。苦しくなったら値上げしようということで7000円という金額でスタートしましたが、現事務局の支出抑制努力もあっていまだに値上げをしていないのは奇跡的だと感じています。

事務局スタッフは充実しておりますが、教職員

数削減により学校の業務はますます厳しい状況です。事務局を長く経験した者として、外注できる業務はどんどん外注して事務局の負担軽減を図ることを提案し、実現に向けて応援していきたいと考えています。

これからも八戸高専同窓会が、より大きな会員の輪を作っていくことを期待しております。

### 【機械工学科・教授 鎌田長幸先生】

～教師の人生～

昭和49年3月に大学を卒業と同時に「高等学校教諭二級普通免許状 工学」を取得し、その後研究生として東北大学工学部に進学しました。



3年間の研究生期間中の初めの2年間は東北学院中学校で「技術家庭科」を、残りの1年間は宮城県白石工業高等学校で「製図」、「設備計画」、「電気一般」の3科目を非常勤講師として教えておりました。いずれの学校共、大学の卒業研究指導教授の推薦によるものでした。この3年間の非常勤講師の体験を通して「教える事」の大切さ・喜びを感じました。

昭和51年7月頃に愛知県豊田市にある某会社に就職が内定していたのですが、指導教授の推薦があり、昭和52年4月に本校機械工学科の助手として赴任しました。在職中は教育・研究・部活と多岐にわたって大変でした。

部活では剣道部（1年間）、自動車工学部（約10年間）、ハンドボール部（平成8年～現在）の副・正顧問を務めました。土・日曜日・祭日は校内での練習、対外試合への学生の引率が数多くありました。平成11年7月の第36回東北地区高専体育大会 ハンドボール競技で優勝し、その年の8月に高知で開催された全国大会に参加しました。

今でもいい経験として記憶に残っております。

卒業研究においては、赴任2年目にホバークラフトを製作したい学生がいるので製作指導に当たる様に当時の機械工学科主任（現学科長）から指名があり、担当する事になりました。

私の専門は熱工学であり、ホバークラフトとはかけ離れた分野ですが、乗り物には大変興味がありましたので了解致しました。学生と共に深夜・休日を問わずに製作に励んだものですが、苦痛は感じませんでした。その甲斐あって、ホバークラフトは見事に完成し、走行にも成功しました。

NHKをはじめとする各放送局及び東奥日報新聞社等の取材を受け、テレビ放映や新聞記事が掲載されました。

八戸高専で38年間、無事に過ごし、定年を迎えられるのは歴代の教職員、同窓生、現役学生の支えのおかげだと思っております。ありがとうございました。

## 【物質工学科・教授 杉山和夫先生】

### ～八戸高専 わが母校～

昭和42年（1967年）4月、私が八戸工業高等専門学校工業化学科5回生として入学したときの校舎は完成間もないピカピカの新校舎だった。学科は、機械工学科と電気工学科と合わせて3学科。土木工学科の増設は翌年のことである。小山高専の大久保校長や総合科学科の細越教授は同期生である。ちょうど5年生までの全学年が揃い、校内は活気にあふれていた。

高専時代の強烈な記憶は『十勝沖地震』である。昭和43年5月16日（木）午前9時49分、マグニチュード7.8の大地震が青森県東部と北海道南西部を襲い、多くの被害が出た。名称は十勝沖となっているが震源地は八戸沖の方が近い。当時、ドイツ語の授業で先生が出張のため自習時間であった。大きな突き上げるような振動が続き、壁や柱



からコンクリートの破片が飛び出し、中の鉄筋が見えた。「逃げろ！」との声があちこちから出たが、歩けない。足元がすくわれて立ってられないのである。揺れがおさまり恐る恐る外へ出た。校舎は使用不能なほど損傷していたが、けが人がいなかったのは幸いであった。

地震後の学校運営については先生方や職員の方々が大変苦勞されたと思うが、学生たちは再び喧噪のなかに入った。授業の遅れを取り戻すため、体育館を間仕切りし応急教室がつけられたが、とにかく騒音の中の授業風景であった。プレハブ校舎ができてようやく落ち着いた。

高専の5年間はとにかく楽しかった。寮生活も楽しかった。若い盛りである。とにかく腹が減る。当時、寮には湯沸かし器がなかったのでインスタントラーメンを水でふやかして食べていた。たまらぬ寮務担当の先生にみんなでお願いに行ったら湯沸かし器がついた。腹いっぱい飯を食べたいといったら、月に1度カレーライス食べ放題の日ができた。定期試験前に勉強したいといったら談話室ができた。困ったときは、『とにかく丁寧に窮状を訴え理解してもらおうこと』と交渉術の知恵がついた。

5年生になると卒業研究が始まった。私は無機材料工学の斉藤研究室に入った。ここでの研究成果が地元の新聞に載った。『アスファルトの粉じん“公害”から新建材作る』と結構大きな見出しである。ここで研究の楽しさを知った。

八戸高専を卒業して43年がたった。大学で30年、本校で8年の学究生活もようやく終わった。人生を決めてくれた八戸高専にただただ感謝するのみである。わが母校よ永遠に！

## 【建設環境工学科・教授 菅原隆先生】

～八戸高専での41年間～

リクルートスタイルが詰襟の学生服であった昭和49年1月、勤務手続きの為に初めて八戸を訪れました。尻内駅(現八戸駅)から南部バスに乗って曲りくねった道を通り、田面木の丘にある八戸高専に着きました。旧校舎玄関脇の「三角池」が懐かしく思い出されます。

昭和50年代は、同世代や先輩の教員が運動部の顧問としてグラウンド、体育館、武道館で学生達と一緒に汗を流し、高専大会の優勝に向けて一生懸命に活動していた時代です。学寮の伝統行事であった柔道寒稽古には30年以上参加しました。教職員対柔道部1年生の試合も懐かしく思い出されます。

運動好きの私は、40年間、陸上競技部の顧問として学生達の活躍する姿を見てきました。中でも昭和63年秋の青森県選手権で100m、400m、1600mリレーで優勝した選手達が誇りに思えます。全国高専大会での優勝者や入賞者も多く、学生達が直向きに練習に取り組む姿を見てると自分も頑張らなければという気持ちになったものです。

土木工学科は平成7年度から建設環境工学科に改組になり、女子学生も増えて華やかになりました。学科の特色は地元民間企業への就職や公務員を多く輩出してきた事です。八戸市庁、青森県庁や県内・外の市町村、国土交通省にも多くの卒業生がおり、活躍しています。これは20年以上も前から公務員対策等の勉強会を立ち上げ、学科挙げてこれに取り組んできた成果であります。

専攻科ができてからは研究のレベルも上がり、指導した学生がコンクリートに関する発表や査読付の論文も作成しています。韓国の全北大学での国際会議に行く列車内で、両脇に専攻科学生を伴っている私を見たハルモニ(御婆さん)が目の前で立止り、両手を合わせて拝んで行きました。若者



と旅をしている御坊さんに見られたのかも知れません。

41年間は長い年月ですが、関係各位の皆様のおかげによりまして、大過なく勤め上げられた事に深甚より感謝し、心より御礼申し上げます。

卒業生皆様の益々のご活躍を祈念いたしますと共に、八戸高専がこれからも大いに輝きながら発展されますことを期待しております。

## 新任教員紹介

### 【総合科学教育科・准教授 佐藤健先生】

4月1日付けで総合科学教育科に着任いたしました。数学と情報系の講義を担当します。こちらに来るまではおもに東北地方の大学や高専など文教系の情報インフラの設計・構築を行う一方で、東北学院大学で情報系講義の非常勤講師を務めたり、工学総合研究所で環境電磁工学の研究を進めたりといった活動をしてきました。

数学は理工系分野においては様々な事象を理解するための共通言語ですので、問題を解くテクニックを身に付けるだけではなく、社会で実際にどのように利用されているのか、どういう分野で生きてくるのかなどをこれまでの経験を通して伝えられたらと思っています。楽しい学校生活を送れるよう頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。



### 【産業システム工学科 電気情報工学コース

#### ・准教授 秋田敏宏先生】

本年4月に産業システム工学科電気情報工学コースに着任しました。3月まで一関高専に勤務しており、人事交流制度により母校である八戸高専にまたお世話になることに



なりました (E30 卒です)。高専在学時は高電界工学、大学在学時はアンテナ・無線工学と情報システム工学について研究してきました。

主となる研究分野は、信号処理・画像処理です。近年は、組込みシステムに関係する人材育成や研究開発、科学技術コミュニケーション活動を行っております。また、産学連携による分解組立型電気自動車教育教材の開発、人を育てるコーチング、創造性教育における発想法など活動の幅は多岐に渡ります。

学生の立場として過ごした八戸高専と教員の立場としての八戸高専の違いに戸惑いながらも、愛着のある八戸の地で、様々な交流していきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

#### 【産業システム工学科 環境都市・建築 デザインコース・准教授 庭瀬一仁先生】

環境都市・建築デザインコースに6月1日に着任しました。本校土木工学科を平成元年に卒業し、日本原燃株式会社に就職、以来 26 年間、放射性廃棄物を安全に埋設処分する仕事に携わってきました。



担当業務の中で、とりわけコンクリート構造の長期耐久設計・評価に注力しまして、関連する成果を論文にまとめ、学位を取得しました。教職に就くことは、教育に携わったのが本校非常勤講師の 2 年数回の講義のみで経験不足に不安はありましたが、コンクリート工学の重要性や知識取得の方法を、ひいては科学技術者として生きていくことの楽しさを、多くの学生に伝えたいという思いで決意しました。研究については、これまでの業務経験を活かして、1,000 年耐久コンクリートを目指した研究を進めたいと思っています。教育と研究をバランスよく遂行し、優秀な人材を輩出するとともに、研究成果を積み重ねていく所存です。よろしく願いいたします。

#### 【総合科学教育科・助教 若狭尊裕先生】

昨年 10 月に総合科学科、現在の総合科学教育科に赴任しました。教育に関しては名古屋大学で半年間数学の授業を受け持っていたくらいで、それほど経験があるわけではありませんが、ただの計算という作業ではなく数学において考えるべき事柄を学生に伝えることができればいいですね。



研究ではかの有名な未解決問題「リーマン予想」にまつわるゼータ関数を対象として日々苦悩しています。

教員としても研究者としても、まだ駆け出しで未熟なところが山ほどありますが、八戸での半年間を通して、自分なりの意志をしっかりとってそれを貫くことができているのではないかと思います。

#### 【産業システム工学科 マテリアル・バイオ 工学コース・助教 福松嵩博先生】

平成27年4月1日からマテリアル・バイオ工学コースの助教に着任しました、福松嵩博と申します。昨年度までは大阪大学大学院にて化学、特に物理化学、高分子化学分野



の研究を行ってきました。八戸高専においても物理化学の担当となったため、これまで学んできた経験を活かし、学生の指導、研究を進めていきたいです。

去年まで大阪で学生生活を過ごしていたため、八戸高専が初めての社会人生活、そして東北での生活の場所となります。先生としてだけでなく、社会人としても未熟な部分があると思いますが、学生とともに自分自身も成長していきたいと考えています。また、八戸に少しでも早く溶け込めたらいいなと思っています。

不慣れな点も多く、皆様にご迷惑をかけることも多々あると思いますが、今後ともどうぞよろしくをお願いします。

**【産業システム工学科 マテリアル・バイオ工学コース・助教 金子賢介先生】**

4月1日からマテリアル・バイオ工学コースに着任した、金子賢介と申します。北海道大学にて博士課程を修了後、昨年度まで同大学で学術研究員として勤めていました。



専門分野は、海洋生物が産生する化学物質に着目した、海洋天然物化学という分野です。海洋生物が産生する化学物質には、抗菌・防虫剤や医薬品として有用な活性を示すものが存在します。このような化合物を海洋生物から単離し、工業・医薬品として産業面へ役立てていこうと研究を進めています。

有用な物質やシステムを「創る」よりも「見つける・転用する」といった側面が大きい分野です。当分野の研究・教育を通して、学生には、何か新しいことを発見する楽しさを体験してもらえたらと考えています。

不慣れな点が多く、ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

## 平成26年度の学内ニュース

### 八戸高専が高専で唯一、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択される！

大学・高専が自治体と連携し、地域を志向した教育・研究・地域貢献を行い、様々な情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在として機能強化を図る「地（知）の拠点整備事業（通称：COC事業）」に19の国公立高専が応募する中で、唯一八戸高専が採択された。

COC事業を通じて、自治体・地元企業と高専が一層連携し、地域への社会貢献や人材育成が進展することが期待される。



COC キックオフ・フォーラムでの事業概要説明

### 女子バスケットボール部 東北地区高専体育大会6年連続優勝！ 全国高専体育大会3年連続準優勝！

女子バスケットボール部が、第51回東北地区高専体育大会で6年連続の優勝を果たし、第49回全国高専体育大会において3年連続の準優勝となった。部員数が決して多くはない中、日々の厳しい練習の成果を発揮し掴み取った勝利である。



地区大会6連覇を成し遂げた部員の皆さん

## 男子バレーボール部

### 東北地区高専体育大会 6年振り優勝！

男子バレーボール部が、第51回東北地区高専体育大会で平成20年以来6年振りの優勝を果たした。前年に引き続き出場となった全国高専体育大会においては、残念ながら予選突破することはできなかったが、強豪を相手に健闘した。部員一同が全国大会優勝を目標に、日々努力した結果である。



6年振りの地区大会優勝を飾った部員の皆さん

## 自動車工学部

### エコランで3年連続3位入賞！

自動車工学部が9月28日に栃木県のツインリンクもてぎで行われた「Honda エコマイレージチャレンジ 本田宗一郎杯全国大会」グループⅢ（大学・高専・専門学校クラス 全89台エントリー）に参加し、機械工学科2年生（現3年生）の中村歩さんが運転する「NP号Ⅲ」が3年連続3位入賞を果たした。大会には本校自動車工学部からは2台が参加し、もう1台は6位に入った。「NP号Ⅲ」は高専チームの中では昨年に続き1位を記録し、1リットル当たり1738.229キロの燃費であった。



自動車工学部員の皆さん

## 全国高専デザコン 2014 in やつしろ

### 構造デザイン部門 審査員特別賞受賞！

11月8日から9日にかけて熊本県八代市で行われた、「人が生きる生活環境を構成するための総合的技術」を競う「第11回全国高専デザインコンペティション」の構造デザイン部門において、建設環境工学科5年生の西野崇行さんをリーダーとして製作した「馬淵川ノ竹蜻蛉」が審査員特別賞を受賞した。構造デザイン部門においては、本校初の受賞となった。西野さんは専攻科に進学しており、全国高専デザコン 2015に向けて更なる飛躍を誓った。



デザコンに参加した学生の皆さん

## 平成27年度 各種大会日程等

### 第52回東北地区高等専門学校体育大会

平成27年7月3日(金)～5日(日)にかけて、第52回東北地区高等専門学校体育大会が開催されます(ラグビーフットボールは10月16日～20日に開催)。今年度は、A大会は一関高専が、B大会は仙台高専名取キャンパスが主管校となっております。大会会場近郊にお住まいの方は奮って応援をお願い致します。

#### A大会(一関高専)

種目	日時	会場
陸上競技	7月4日(土) 9:00～	一関運動公園陸上競技場
バスケットボール	7月3日(金) 16:00～	東山総合体育館
卓球	7月3日(金) 16:00～	[晴天時] 奥州市総合体育館メインアリーナ [雨天時] 奥州市総合体育館サブアリーナ
剣道	7月4日(土) 9:00～	一関市総合体育館サブアリーナ
テニス	7月3日(金) 16:30～	[晴天時] 一関運動公園テニスコート [雨天時] 奥州市総合体育館メインアリーナ
ハンドボール	7月4日(土) 9:00～	北上総合体育館
バドミントン	7月3日(金) 16:00～	一関市総合体育館メインアリーナ

#### B大会(仙台高専名取キャンパス)

種目	日時	会場
バレーボール	7月3日(金) 17:00～	仙台市体育館
ソフトテニス	7月4日(土) 8:30～	シェルコムせんだい
柔道	7月4日(土) 9:00～	宮城県武道館
硬式野球	7月3日(金) 17:00～	名取市民球場
サッカー	7月4日(土) 9:00～	松島フットボールセンター
水泳	7月4日(土) 9:30～	スパッシュランドしろいし
ラグビーフットボール	10月16日(金) 10:30～	くろみクラブ蔵王グラウンド

### 本田宗一郎杯 Honda エコマイレッジチャレンジ 2015年 第35回全国大会(エコラン)

9月19日(土)練習走行、9月20日(日)決勝  
会場:ツインリンクもてぎ

### アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2015(ロボコン)

課題:『輪花繚乱』

東北大会:10月25日(日)

秋田市立体育館

(秋田県秋田市、主管校 秋田高専)

全国大会:11月22日(日)

両国国技館(東京都・墨田区)

### 全国高等専門学校

### 第26回プログラミングコンテスト(プロコン)

メインテーマ:「<sup>つ</sup>の<sup>やり</sup>發送だせ!技術だせ!ずくだせ!」

本選:10月11日(日)～12日(月)

会場:ホクト文化ホール(主管校 長野高専)

### 全国高等専門学校

### デザインコンペティション2015

### in 紀の国わかやま(高専デザコン2015)

メインテーマ:『ささえる』

本選:11月14日(土)～15日(日)

メイン会場:和歌山県民文化会館

(主管校 和歌山高専)

### 全国高等専門学校

### AMデザイン(3Dプリンタ)

### コンペティション夏大会

作品のテーマ:『IT関連グッズ』

本選:8月26日(水)

会場:東北大学川内キャンパス

(主管校 八戸高専・仙台高専)

# コースからのメッセージ

## 機械システムデザインコース

**【学科改組】**平成 27 年 4 月の改組により、機械工学科は「産業システム工学科 機械システムデザインコース」になりました。医療・介護・福祉分野や災害・原子力分野などからのニーズに対応すべくロボティクス・メカトロニクス分野の強化を図ります。新コースもよろしく願いいたします。

**【人事異動】**鎌田長幸教授が、本年 3 月末でめでたくご定年を迎えられました。先生は熱工学分野の教育と研究はもちろん、学級担任やハンドボール部顧問、地域の子供向け出前講座など多方面で活躍されました。幸い、4 月以降も嘱託教授としてお力添えをいただいております。

戸高専の草創期から機械工学科の基盤づくりと発展に貢献された本校名誉教授 鈴木幸三先生が、昨年 11 月 20 日に逝去されました。鈴木先生の多大なご功績に感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

**【進路状況】**昨年度末で機械工学科を卒業した 46 名の進路は、就職 31 名、進学 14 名、研究生 1 名となっています。進学者のうち 9 名が本校の専攻科に進学しており、昨年度の 12 名と合わせて専攻科は大所帯となりました。一方、今年度の 5 年生は 38 名で、就職希望 23 名、進学希望 15 名です。今年度から就職活動日程が後ろ倒しされて長期戦となっており、就職希望者も進学希望者も受験に向けた勉強に励んでいます。

**【終わりに】**3 月の卒業式では、機械工学科から過去最多となる 5 名の女子が卒業しました。これで機械の女子も減ってしまうと思いきや、4 月には 6 名の女子学生が改組したばかりの「機械システムデザインコース」に入学してくれました。機械系の女子在籍数は合計 16 名（8%）です。新しい機械系の風を予感させます。メカ女たちの活躍を祈りながら、卒業生の皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。

（機械システムデザインコース長 武尾文雄）

## 電気情報工学コース

**【進路状況】**昨年度は本科卒業生 46 名中 25 名が就職、21 名が進学で、進学率は過去最高の約 46% でした。なお、求人数は 678 社もあり、リーマンショック以降増え続けております。専攻科電気系は修了生 4 名中 1 名が公務員希望、3 名が進学でした。このうち 2 名が専攻科からはじめて東京大学大学院に合格という快挙を成し遂げました。

今年度は、本科卒業予定者 41 名で、現在、就職希望者が 24 名で順調に就職活動を進めております。進学希望は 17 名で、そのうち 2 名が専攻科に推薦合格しました。今年度は約 6 割が就職希望で、約 4 割が進学希望となっております。専攻科電気系修了予定者は 5 名で、就職希望が 2 名、進学希望が 3 名です。

**【学生の活躍】**昨年度の電気情報工学科の活躍の様子をお知らせします。3 年学習到達度試験において、戸高専は数学・物理総合で全国 3 位というすばらしい成績で、さらに電気情報工学科は学内トップでした。プロコンでは自由部門で敢闘賞をみごと受賞しました。ロボコン東北地区大会では特別賞を受賞しました。

専攻科第 2 学年特別研究発表会では、相馬由健君（鎌田研究室）が特別研究最優秀賞、小林健太君（釜谷研究室）が特別研究優秀賞を受賞しました。

最近の活躍としては、専攻科 2 年の小林健太君（釜谷研究室）が計測自動制御学会の学術奨励賞・技術奨励賞を最年少で受賞しました。

**【教員の移動】**高専間教員交流で、鎌田貴晴先生が一関高専へ、そして一関高専から秋田敏宏先生（本校 E30 回生）が来られました。

**【最後に】**卒業生・修了生の皆様には、多方面にわたってご支援・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。こちらにお越しの際はぜひお立ち寄りいただき、近況をお知らせいただくとありがたいです。楽しみにしております。

（電気情報工学コース長 松橋信明）

## マテリアル・バイオ工学コース

**【進路状況】**昨年度の物質工学科卒業生は 42 名（男 20 女 22）で、就職 21 名（男 11 女 10）、進学 21 名（男 9 女 12）でした。専攻科修了生は 6 名（男 4 女 2）で、就職 3 名、進学 3 名でした。専攻科修了生の進学先は、東北大学大学院、北海道大学大学院、山形大学大学院にそれぞれ 1 名です。今年度本科 5 年生は 39 名（男 22 女 16）で、就職希望 15 名（男 7 女 8）、進学希望 24 名（男 15 女 8）です。専攻科 2 年生は 7 名（男 6 女 1）で就職希望 2 名、進学希望 5 名です。

**【見学旅行】**昨年度の 4 年生の見学旅行は、物質工学科で初めての関西方面への見学となりました。11 月 4 日（火）～7 日（金）の期間で、三洋化成工業、ダイハツ工業、サントリーホールディングス、神戸製鋼所の企業に加え、大阪大学工学部も見学させていただきました。それぞれの訪問先では高専 O B の方々にも説明に加わっていただき、学生にとって充実した見学となりました。ご協力、有難うございました。

**【主催イベント】**中学生向けの「化学の学校」は、昨年 11 月 1 日（土）に開催し、中学 1～3 年生 28 名が様々な実験（15 テーマ）を行い、化学の面白さを実感してもらいました。また、中学校理科教員向け『中学校理科実験のスキルアップ講座』を 12 月 24 日（水）に開催し、中学校教員 33 名が様々な実験に参加しました。今年度もそれぞれ 11 月と 12 月に開催予定です。

**【最後に】**本年度から改組となり、物質工学科はマテリアル・バイオ工学コースとなりました。今年入学した本科生、専攻科生が本コースの 1 回生になります。これからも、本コースの学生、教職員へのご支援ご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

（マテリアル・バイオ工学コース長 松本克才）

## 環境都市・建築デザインコース

**【進路状況】**この 3 月に建設環境工学科を卒業した 35 名の内、20 名が就職、15 名が進学しました。就職の内訳は、6 名が公務員として国土交通省(2)、八戸市、八戸圏域水道企業団(2)、横浜市に勤めています。また、JR 各社（北海道、東日本）や電力等のインフラを中心に 14 名が民間企業に勤めております。進学は、8 名が専攻科に、他大学に 7 名が土木系と建築系の学科に進学しました。専攻科生は、東北大学大学院 1 名、公務員 3 名（国土交通省、青森県庁、八戸市）、民間企業 1 名となっています。一方、今年度の第 5 学年生は 37 名で、就職希望 20 名、進学希望が 17 名となっております。就職希望の 20 名の内、9 名が民間企業を、11 名が公務員を希望しております。今年の「就職協定」や、一部の公務員試験が 6 月に実施する事等により、公務員志望が若干多くなっています。民間企業や公務員試験に向けて、学生は準備に励んでいます。専攻科生は、進学希望 2 名、公務員希望 4 名、民間企業 2 名が希望しております。

**【菅原先生の退官】**昭和 49 年から 41 年間にわたり勤務された菅原先生が平成 27 年 3 月で定年を迎えました。現在は、再雇用で講義や研究等で学生指導を続けております。

**【最後に】**6 月 1 日付けで庭瀬先生が着任されました。コンクリートや材料等が専門です。

卒業生の皆様が帰省等で近くにお越しの際には、お気軽に学校にお立ち寄り下さる事を願っております。

（環境都市・建築デザインコース長 南将人）

## 平成 27 年度 事務局短信

### ★10 年会費（7000 円）納入のお願い

今年度は、平成 7 年 3 月卒業(MEC-28 回生, Z-23 回生)および平成 17 年 3 月卒業(MEC-38 回生, Z-33 回生)の方が 10 年会費納入期にあたります。請求書が同封されておりますので、会費納入をお願いいたします。また、それ以外の同窓生で未納の方も会費納入をお願いいたします。

(注)封筒に添付されている宛名シールに星印がありますが、星印の数が 10 年会費納入までの残りの年数を示しています。従って、星印の無い方が会費を納入する必要があります。

### ★住所調査葉書

同窓会名簿データ更新のため住所や職場の変更のあった方は同封の葉書にて同窓会宛に返送してください。また、同窓会では経費削減のため会報発行、事務連絡を電子メールで実施することを検討しています。この機会に E-mail アドレスの記入をお願いいたします。

なお、同窓会名簿で非公開としたい情報は、はがきのチェック欄にレ印を記入ください。ただし、同窓会の会員データとして情報が必要ですので住所等は必ず記載してください。

### ★平成 26 年度の事業報告

平成 26 年度は以下の事業を行いました。

年度	月	項目
26	4/ 4	事務局打ち合わせ会議開催
	5/ 8	正副会長、事務局打ち合わせ会議開催（八戸）
	5/17	評議会開催（八戸）
	6/	会報第 40 号発行および住所調査実施*1
	9/ 6	評議会開催（八戸）
	9/20	理事会開催（名古屋）
	9/20	第 23 回総会（名古屋）
	11/15	学校関係者との懇談会
3/18	新入会員（第 48 期生）入会式実施	

★会員名簿（平成 27 年度版）の注文方法のお知らせ

名簿は平成 27 年 11 月に作成予定です。名簿の購入を希望される方は、同封の住所調査葉書に名簿注文欄がありますので、○印を付けて返送してください。値段は実費（送料込 1,500 円）ですので、名簿到着後、名簿に同封されている振込用紙にてご送金ください。送金をお忘れにならないようご注意ください。

★同窓会会報等の送付先について

同窓会からの郵送物の送付先を、勤務先にしたい方は住所調査葉書に記載欄を設けておりますのでご利用ください。

★クラス会活動補助金について

同窓会では、クラス会活動の活性化を目的に「クラス会活動補助金」が予算化されております。1 クラスあたり 10,000 円で、先着 10 クラスまでとし、連絡先を明記したクラス名簿およびクラス会報告（写真などを含む）が義務付けられます。

★その他

同窓会は個人情報保護法の規制団体ではありませんが、連絡いただいた情報の管理は厳格に行っております。また、住所等の情報について特別な事情がある場合には同窓会事務局まで連絡してください。